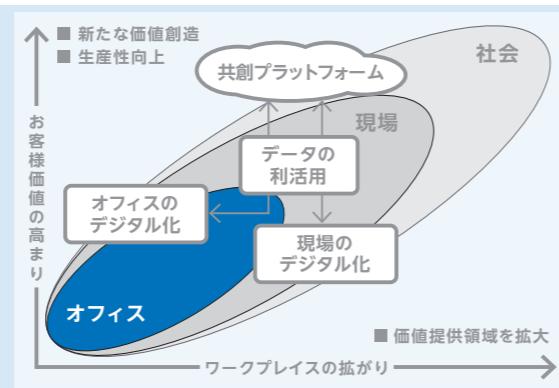


RDP リコーデジタルプロダクツ

BUの役割

オフィスにおける中心的なエッジデバイスとなる複合機(MFP)をはじめ、現場も含めたワークプレイスにおいて、お客様の“はたらく”をサポートするエッジデバイスを開発し、リコーグループのデジタルサービスを支えます。



BUプレジデントメッセージ

ものづくりビジネスユニットであるリコーデジタルプロダクツの重要な使命は、お客様へお届けするデジタルサービスを高い次元で実現するための魅力あるエッジデバイスを創造し提供し続けることです。2021年度は、開発から生産、販売までの一貫体制を構築したことで、製品の開発・生産の効率化やスピードアップといったものづくり体質を強化することができました。引き続き、オペレーションアルエクセレンスを追求しながら、さらなる事業拡大と非連続な成長に向けて取り組んでいきます。

また、2021年度は、半導体をはじめとした電子部品の不足や原材料費・物流費の高騰など、外的要因が生産に大きく影響を及ぼしました。この経験を踏まえ、外部環境変化に左右されないものづくり体制を実現するために、製品の開発段階から部品入手困難になった場合の対応策をあらかじめ設計プランに盛り込む開発手法の導入や、同一製品の複数拠点生産を可能にする生産クローン体制の構築に挑戦します。

さらに、同業他社との協業による製品の共同開発やモジュール相互補完、そして工場の相互利用など、社外の力を積極的に活用していきます。

中田 克典

リコーデジタルプロダクツビジネスユニット プレジデント



CASE STUDY 01

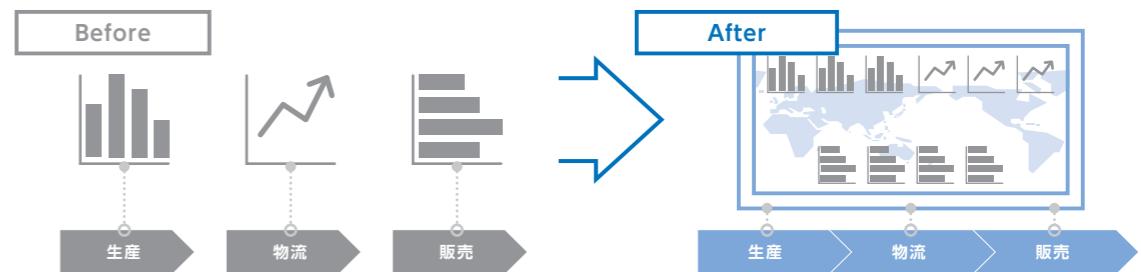
生産・物流・販売情報を分析して課題把握から解決へ 製品ロジスティクスマニタリング

お客様へ安定的に製品を供給し続けるためには、昨今の部品不足による製品供給計画の見直しや物流混亂への迅速な対応が不可欠となっています。生産・物流・販売部門では、生産拠点から世界中の国と地域へ製品をお届けるまで多くの情報を管理していますが、サプライチェーン全体の在庫状況を一貫して収集・統合・可視化し、日次でモニタリングする新たな仕組みを構築しました。これにより、製品が安定供給されていることを1つの画面で効率的に把握できるようになりました。

また、市場における製品の不具合情報を含む稼働状況を分析し、生産現場にリアルタイムで伝達する仕組みを作りました。これにより、お客様満足度の高い品質を達成し、市場でのサービス時間を大幅に短縮できる製品をいち早く工場で生産することが可能になりました。

今後、これらの分析情報を部品メーカーにも提供することで、さらなる品質向上を実現するサプライチェーンを構築します。

そして、これらのシステムをお客様へも提供していくことを目指します。



CASE STUDY 02

カジュアルで臨場感のあるウェブ会議を実現 RICOH Meeting 360 V1

「RICOH Meeting 360 V1」は、360度カメラ・マイク・スピーカーを備えたオールインワン型の会議デバイスです。

リコーグループ独自の360度映像補正技術により、顔の明暗を調整して周囲360度全員の表情をはっきり表示するだけでなく、会議の話者を自動フォーカスすることができます。また、自社ビデオ会議システムの開発で培ったマイク集音技術により、離れた距離からの音声でもクリアに集音できます。これらの技術を活用し、カジュアルかつ臨場感があるこれからのウェブ会議を実現します。

今後、議事録作成支援や話者判別、記録検索などの新しい機能を追加していく予定です。音声や映像というアナログ情

報をデジタルデータに変えることで、企業の情報資産として蓄積するだけではなく、その利活用を可能にし、お客様の困りごとの解決と、新しい働き方の実現につなげていきます。



話者の自動フォーカスの切り替わり感度や、遠い距離からの集音、ウェブ会議の相手と声が重なってしまったときにエコーを低減する機能など、お客様の使い勝手にこだわってチューニングを重ねました。

西岡 国彦

リコーデジタルプロダクツBU
SC事業部 NED事業推進室 開発一グループ